

自分を縛っているものをほどきましよう

谷口雅春

人間は「神の子」である。

それなのに何故不幸であるのか。

それは自己解放を遂げないからである。

肉体の人間は、時として自己の本質が

霊的実在であることを見失って、

自己が「物質的存在」であるところを觀念に拘って、

自己本来の「自由自在性」を

自縄自縛してしまい勝であるのである。

「霊」の進歩向上と云うことの指標は、

どの程度まで、その人が、

自己内在の神性を自己解放し得たかどうか

と云うことによって量られるのである。

宗教の目的は、人間をして

自己にやぶる「神性」を自覚せしめ、

自己解放によって、その「神性」を

生活面に実現せしめるにある。

（新装新版『真理』第10巻55頁）